

教育委員会事務事業
点検・評価報告書
(平成27年度事業対象)

平成28年7月
小松市教育委員会

はじめに

この報告書は「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の規定に基づき、小松市教育委員会が平成27年度実施した事務事業の取り組みについて自らその状況について点検し評価を行い、金沢学院短期大学 諸岡康哉教授にご意見をいただき、まとめたものです。

平成28年7月

小松市教育委員会

教育委員会

職名		氏名
教育長		石黒和彦
教育委員	教育長職務代理者	北村嘉章
	委員	野田美和子
	委員	蘆邊千鶴子
	委員	吉原慎吾

【参考】「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」(抜粋)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十六条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務(前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務(同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。)を含む。)の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

目次

1. 小松市教育大綱

1 理念及び目標	1
2 教育推進の地域ポリシー	1

2. 事務の点検評価

施策1 学校教育の充実

1 組織的な運営	2
2 確かな学力の育成	2
3 豊かな心の育成	6
4 健やかな体の育成	8
5 家庭地域との連携	9
6 その他	9

施策2 教育環境の整備充実

1 安全・安心な学校施設の整備充実	11
2 安全・安心な学校管理	11

施策3 生涯学習の振興

1 社会教育委員	12
2 生涯学習推進体制の充実	12
3 活力ある地域づくりの推進	14
4 青少年の健全育成	15

施策4 文化振興

1 文化財の保護と活用	18
2 伝統文化の継承	21
3 文化施設の活動充実	21

3. 教育委員会会議および教育委員の主な活動

(1) 教育委員会会議の開催状況	25
(2) 教育委員が出席した主な活動内容	31

1. 小松市教育大綱

今後の本市の教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の体系を示すため、『智仁勇 あすのこまつを創る人』を「理念」に「目標」「教育推進の地域ポリシー」によって構成する小松市教育大綱を、平成27年6月に小松市総合教育会議で承認を経て策定しました。

1 理念及び目標

平成25年4月に策定した「学びの道しるべ」を継承し、教育の継続性・一貫性を重視します。

〈理 念〉

智仁勇 あすのこまつを創る人

〈目 標〉

- 【1】 生涯にわたり みずから学ぶ人
- 【2】 思いやりのある 心豊かな人
- 【3】 すこやかで 活力あふれる人
- 【4】 ふるさとを愛し 世界にはばたく人

グローバル化の急速な進展を踏まえ、以下を目標に追加します。

- 【5】 未来を拓き たくましく生きる力を育む

2 教育推進の地域ポリシー

時代の要請に応じ、地域・家庭一体となって教育を推進します。

1. 学校と地域や企業、関係団体など地域が一体となり、まち全体で子どもたちを守り育てます
2. 幼児教育から義務教育、高等教育へと切れ目ない一貫した教育を展開し、未来を担う子どもたちを育てます
3. ダイバーシティ（多様性）に対応できる、感性豊かな子どもたちを育てます
4. 親子や家族で互いに愛情を感じ、感謝する心を育みます
5. 豊かな自然と食、伝統文化、産業技術力を生かしたこまつ独自の教育で、ふるさとを愛し世界で活躍する人材を育てます
6. 文化、スポーツの環境を整え、指導者を育成し、全国・世界で活躍する人材を育てます
7. 機動的な市組織づくりを進めるとともに、地域の推進体制も充実し、教育の推進組織を高めます

2. 事務の点検評価 (【1】～【5】は小松市教育大綱の目標の番号、☆は今後の改善点を示す。)

施策1 学校教育の充実

＜未来を切り拓き、生涯にわたって自立的に生きる力を育む学校教育の充実＞

〈方針〉主体性・創造性・国際性を指向するとともに、自らを律し、他と協調しながら自立的に生きる力を育み、健全で活力あふれた人づくりを目指す。学校教育においては、学習指導要領の趣旨を徹底し、「生きる力」を支える「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和を重視するとともに、教師に対する揺るぎない信頼を確立し、「特色ある学校」づくりを目指す。

目項	事業の名称及び実施概要	評価
1 組織的な 学校運営	<p>○学校評価の運用【1・2・3・4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価運営交付金 	<p>・各学校は、特色ある学校づくりのため、様々な取り組みを行っている。市として各学校の事業内容、学校規模を考慮しながら交付金を決定し、重点目標の具現化を予算面でサポートし効果を上げた。</p> <p>☆今後も各学校の特色ある学校づくりを支えていくため、本事業を継続していきたい。</p>
	<p>○管理職研修【1・2・3・4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校マネジメント能力の育成 	<p>・教頭を対象とした管理職研修を5月、8月、10月の3回行った。第1回:講話(小松教育事務所長) 第2回:課題別演習 第3回:法規演習</p> <p>☆トップリーダーの育成は喫緊の課題であり、今後も教育行政関係者を講師として招聘し、国・県の動向を知るとともに、管理職として必要な見識・考え方を学び、学校経営能力の育成を図りたい。</p>
	<p>○主任研修【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の研修 ・ミドルリーダーとしての役割の自覚と資質の向上 	<p>・年2回(4月、12月)開催し、組織的な学校運営のための教務主任の役割や学校が抱える課題への対応等について、グループ協議を通し深めることができた。</p> <p>☆教務主任の学校で果たす役割は大きく、今後も研修を継続し、その資質の向上に努めたい。</p>
2 確かな 学力の 育成	<p>○わかる授業プロジェクト【1】</p> <p>教師の授業改善や指導力向上により、児童生徒の確かな学力の向上を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「わかる授業プロジェクト」リーフレットの作成・啓発 ・「授業づくりセミナー」の開催(年3回) ・小松市基礎学力調査 小3, 小5, 中1, 中2を対象 ・学力向上プラン策定 ・学力向上アプローチの作成・配付 	<p>・児童生徒が課題解決に向けて主体的・協働的に学ぶ「わかる授業」の実現に向け、「思考を深める授業づくり」「支え合い高め合う集団づくり」「組織的・継続的に指導改善を図る体制づくり」の3つを柱としたリーフレットを作成・配布し、市の方針を啓発することができた。特に授業づくりにおいては「学習課題の工夫」「学び合い学習の充実」「学びの自覚化」を重点事項とし、各教科の指導資料により、具体的な取組の普及を行うことができた。</p> <p>・「授業づくりセミナー」(国語・算数・社会)では「わかる授業プロジェクト」の具現化に向けて、示範授業や講話等を通して、参観者が授業づくりのイメージを共有する機会とすることができた。</p> <p>・学力向上事業として、市内各校に「学力向上プラン」・「年間スケジュール」の作成を依頼した。各部の分業と連携が意識され、各校の学力の課題を踏まえた組織的な取組につながった。</p> <p>☆各校では授業改善の意欲や、組織的な学力向上の意識が高まってきている。今後は各校の授業づくりの視点に「わかる授業プロジェクト」を明確に位置づけた取組を推進し、市内全体の授業力向上や学力向上に努めたい。</p>

<p>○英語力の向上【4・5】 児童生徒のコミュニケーション能力の育成と教師の指導力向上を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校ハローイングリッシュ推進事業 外国語指導助手・地域人材の派遣 ・中学校英語力向上事業 非常勤講師の配置 英語チャレンジテストの実施 ・松東中学校区小中連携英語教育 常駐外国語指導助手・日本人講師を配置 ・那谷小学校・丸内中学校英語教育 常駐外国語指導助手の配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校においては、外国語活動講師を積極的に活用することにより、学習活動の充実が図られ、児童のコミュニケーションへの興味・関心や意欲が高まった。 ☆小学校外国語活動では、今後、学級担任と講師との効果的なチームティーチングの在り方について研究を深める必要がある。 ・中学校においては、1年生を中心とした非常勤講師の配置により、きめ細かな指導体制の充実が進められた。 ☆基礎基本の定着や活用力の向上が課題であり、さらに授業改善が求められる。 ・松東中学校区・那谷小学校・丸内中学校では、外国語指導助手等とのチームティーチングにより、英語を聞く・話す機会が充実し、児童生徒のコミュニケーションへの意欲の高まりが見られた。 ☆今後は、小学校で高められたコミュニケーション能力の素地を踏まえ、中学校で英語力を一層高めていく指導改善が求められる。
<p>○理科教育の充実【1・5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JAXAとの連携 <ol style="list-style-type: none"> ①教職員研修 ②宇宙の学校 ・サイエンスワールド開催 <ol style="list-style-type: none"> ① いしかわ子ども交流センター 402名参加 ② 芦城小学校講堂 250名参加 ・サイエンスアドベンチャー(新規) 100名参加 ・サイエンスヒルズの活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・科学実験実習講座は、JAXAの遠藤純夫氏を招き、身近なものを用いた実験を通して、子供たちの科学への好奇心を育むことの大切さや科学が子供たちの可能性を広げていくことについて講演いただいた。実際の授業にいかせる有意義な研修であったという感想が多数あった。 ・宇宙の学校では、若手教員が講師をつとめ、子供たちの科学への興味関心を高める取組を行うことができた。 ・サイエンスワールドは、平成17年より開催している。小・中学生を対象に2回行った。今年度は、親子で体験できるブースを取り入れ、親子で科学について学ぶ機会となった。今年度もどのブースも大好評で、科学のおもしろさと不思議さを体験することが、児童・生徒の理科に対する興味・関心へのつながりが見られた。 ・今年度より、小学生ものづくりコンテストと湯浅中山賞研究発表会を合わせ、サイエンスアドベンチャーとして開催した。今年度も金沢大の松原教授にアドバイザーを依頼し、丁寧で的確なご助言を頂いた。小学生ものづくりコンテストでは、子供たちの科学的思考力・表現力の充実につながった。 ☆今後も内容を工夫し、子供たちの科学的探究心をさらに高めることに重点をおき、取組を充実させる。 ・ミーティングを定期的に行い、市内各学校の活用を推進するための方策について協議した。 ・夏季教職員研修として、サイエンスヒルズ職員の北野皓嗣氏、久保有紀子氏を招き、ものづくりの先端技術について講演いただいた。
<p>○国語力の育成【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かけはし文芸コンクールの実施 ・森山啓ジュニア文芸賞の表彰 ・群読コンクールの実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・かけはし文芸コンクールでは、生活作文・意見文・詩・短歌・俳句の部で総計35,322作品の応募があった。優秀作品を掲載するかけはし文芸コンクール作品集の作成や、4年目となった森山啓ジュニア文芸賞の表彰を行い、思考力を鍛え心情を豊かにする「書く活動」の啓発に努めた。 ・表現の豊かさを味わわせるとともに、文章を読んで感じたことを表現する力をはぐくむための群読コンクールが2年目を迎えた。小中学校あわせて20点の応募があり、優秀作品はテレビ小松で放映した。 ☆28年度はさらに多くの児童生徒が出品できるものにしていきたい。 ☆子供たちが自身の思いや考えを発信する機会の設定が必要である。他の事業と連動させた「作文」事業を展開したい。

<p>○授業支援事業【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校訪問 教育課程の実施状況の把握, 指導・助言 計画訪問 29校で実施 要請訪問 年間40回 市立高等学校 1回 ・学習サポーターの配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小・中・高等学校において計画訪問・要請訪問を実施し, 各校における教育課程・組織的な学校運営・生徒指導等の実施状況について把握し, 課題や改善すべき点について効果的に指導・助言を行うことができた。本年度の改善点としては, 担当者協議を取り入れたことで, 担当者に対する周知や市教委との課題の共有が進んだことや, 全体会でのまとめの時間の確保により, 周知・伝達が十分にできたことなどである。 ・学習サポーターを小学校21校, 中学校5校に配置し, 担任または指導者の指示のもと児童生徒の学習活動の支援に入っている。 <p>☆各学校の希望は多く, すべての希望には添えていない現状があり, さらに支援の充実をはかりたい。</p>
<p>○研究推進事業【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修 ・夏季教職員研修 教職員の資質向上, 見識を広めること等を目的に教育関係を中心にして様々な分野から講師を招き, 教職員を対象に夏季休業中に研修を開催する。 ①<アクティブ・ラーニング> 文部科学省 視学官 田村 学 氏 219名参加 ②<インクルーシブ教育> 東京都立青山特別支援学校 主任教諭 川上 康則 氏 155名参加 ③<インクルーシブ教育> 福岡県飯塚市立飯塚小学校 教諭 杉本 陽子 氏 151名参加(2講座) ④<学級づくり> 上越教育大学教職大学院 教授 赤坂 真二 氏 166名参加 ⑤<道徳教育> 文部科学省 教科調査官 赤堀 博行 氏 189名参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の資質向上のために, 学校教育課の夏季教職員研修として, 大学の教授等専門性の高い講師5名を招聘し, 6講座を実施した。学習指導要領改訂の重点となっているアクティブ・ラーニングの推進や道徳の教科化等, 具体例を交えながらお話していただいた。どの講座も参加者の評価は高く, 好評であった。 <p>☆今後とも, 教育の動向を見据え, 教職員のニーズを捉えた研修会の内容の充実, 優れた講師の発掘に努めたい。</p>
<p>○授業づくりセミナー【1】</p> <p>児童・生徒に確かな学力をつける授業の実現に向け, テーマに基づいた提案授業(模擬授業・示範授業等)をもとに協議し, 授業改善の具体的な方向性を共有することで, 授業づくりや指導の改善に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国語科 グループ協議「単元構想について」 35名 ②社会科 国土舘大学 教授 北 俊夫 氏 33名 ③算数科 筑波大学附属小学校教諭 盛山 隆雄 氏 87名 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は, 児童・生徒に確かな学力をつける授業の実現に向け, 講師を招聘し, 模擬授業や示範授業をもとに協議し, 授業改善の具体的な方向性を示唆していただいた。また, 国語科では, 中学校教諭による実践報告やグループ協議を行った。 ・どの講座も, 参加者の評価は高く, 「今後の授業の参考になった」「明日からすぐに実践してみたい」という感想が多かった。 <p>☆これからも, 確かな学力をつける授業の実現に向け, 課題やテーマを明確にし, 充実した研修会を行いたい。</p>
<p>○パワーアップ研修会【1】</p> <p>教員の学級づくり, 授業づくりの向上をめざし, グループ協議を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度8回目のパワーアップ研修は, 18名の若手教員が参加し, 少人数でのグループ協議に指導主事が加わり, 生徒指導, 学級経営, 授業など日頃の悩みを, 具体的な視点で深めることができた。指導主事からの指導・助言だけでなく, 同年代の教員とも交流ができ, 大変有意義な会となった。 <p>☆新規採用者の増加に伴い, 研修形態を見直す時期にきている。学校のニーズを把握し, 校内のOJTの充実につながる研修内容を用意する必要がある。</p>

<p>○教育研究センター研究・研修事業【1・2・4】</p> <p>教職員・保護者，一般市民が教育課題について学ぶ講演会の開催や教職員の資質向上を図るための研修講座の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種研究会の運営 ・教育講演会の開催(1回)230名 ・児童生徒理解講座の開催(1回)95名 ・地域理解講座の開催(1回)35名 ・情報スキルアップ講座(2回)50名 ・科学実験実習講座の開催(2回)48名 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演・講座については各分野の専門家を招聘することができた。内容も質的に高く大変有意義なものであった。参加者のアンケート結果は好評であった。来年度も各分野の専門家を招聘したい。 ・科学実験講座を開催し、特に若手教員の指導力向上を意識した研修の充実を図ってきた。 <p>☆今後も、若手の人材育成に重点をおいて研修を行う予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の情報スキルアップ講座は、主にExcelとPowerPointの基本的操作についての内容であった。参加者からは、校務や授業などですぐに活用できるので、大変有意義であったという意見が多かった。
<p>○研究指定校による推進啓発【1】</p> <p>学校研究及び教育実践の創造性，主体性を尊重し，市教委が研究実践について支援することにより，一層の推進・充実を図る。</p> <p>学力向上研究推進事業実践校 中海中 教育課程研究推進校 月津小 理科教育推進校 板津中 情報教育推進校 安宅小・安宅中</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本年度は，市指定の2校が研究最終年度の研究発表会を行った。 <p>中海中学校は，生徒同士の関わり合いをテーマに，学び合い学習の充実による授業改善を中心に取り組んだ。</p> <p>月津小学校は，算数科の授業改善に取り組んだ。いずれの学校も研究発表会では，公開授業や授業整理会が実施され，市内外へのよい発信の場となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県・市教育委員会指定の研究校による中間発表会等も開催された。 <p>☆今後も，今子供たちに求められている資質・能力の育成や教師の指導力・授業力向上に向け，研究テーマや内容を検討していきたい。</p>
<p>○特別支援教育推進事業【2】</p> <p>LD，ADHD，高機能自閉症等を含めた障害のある児童生徒の一人一人のニーズに応じた，適切な指導・支援を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育支援員の配置 43名 小学校31名，中学校12名 ・特別支援教育支援員の打合せ会・研修会 ・通級指導教室の充実(芦城小・矢田野小) ・特別支援教育コーディネーター連絡会 ・特別支援学級・通級指導教室担当者会 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校に特別支援教育支援員を43名配置し，児童生徒の学習活動・学校生活上の支援を行うことができた。 ・通級指導教室として，芦城小学校と矢田野小学校に言語障害と特別支援，計4教室を設置し，市内全域を対象として児童生徒の指導に当たった。 ・各学校では，特別支援コーディネーターを指名，校内委員会を設置し，特別な支援が必要な児童生徒の実態把握に努め，個に応じた指導・支援に努めた。 <p>☆今後，児童生徒のより一層の支援の充実を図るために，特別支援教育の体制整備が必要となる。</p>
<p>○帰国外国人児童生徒支援事業【4】</p> <p>帰国・外国人児童生徒の日本語指導や学校への適応指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教室の設置 第一小学校(センター校) ・訪問指導(日本語支援員・通訳支援員の派遣) ・連絡協議会の開催 ・他機関との連携(KIA・国際都市推進課) 	<ul style="list-style-type: none"> ・通訳講師・通訳サポーターの派遣により日本語教室設置校以外の在籍校への支援を行った。また，日本語支援員による訪問を行い，初期段階の日本語指導が必要な児童生徒への適応指導や日本語指導(学習指導含む)の充実が図られた。 ・27年度の在籍校連絡協議会では在籍校の担当者による情報交換や，日本語教室の教諭による保護者対応・進路指導等についての実践発表を行い，帰国外国人児童生徒への対応について研修を深めた。 <p>☆今後も，対象児童・生徒の動向を確かめながら日本語指導の充実や受入体制，連絡協議会の充実についても検討したい。</p>

	<p>○ICT活用教育推進事業【4・5】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT環境整備 ・インストラクターによる訪問 ・情報モラル教育の推進 (中学生サミット) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各校でのICT化が進み、インストラクターの訪問要請が年々増加している。定期訪問以外の突発的なトラブルや授業支援等にも柔軟に対応できた。 ・情報モラル教育では、中学生サミットの取組を通して、ネット問題について市全体に啓発・発信することができた。また、生徒の自治的意識や主体性の向上を推進することができた。今後も、さらに充実した取組になるように推進していく。 <p>☆今後の課題としては、保護者への啓発、意識改革が重要である。次年度は、市PTA連合会と連携し、中学生サミットの取組を推進したい。(保護者向けアンケートの実施、リーフレット作成等)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 豊かな心の育成</p>	<p>○読書活動推進事業【2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブックリストの作成 ・学校司書への研修 ・図書ボランティアの育成 ・図書館システムを活用した相互貸借 ・小松市図書館を使った調べる学習コンクール ・十九番館お話の会 ・図書ボランティア連絡会の動向と課題 	<ul style="list-style-type: none"> ・「新子ども読書活動推進計画」に沿って、発達の段階に応じた読書活動の推進に努めている。 ・ブックリストは、幼児から中学生までの発達段階に応じた良書を200冊選出したものである。24年度に小中学生全員に配付し、25年度からは新1年生に配付している。読書の記録として中学卒業まで使用するものであり、読書の量と同時に読書の質を高めるのに効果的であった。また、ブックスタートとして、4ヶ月検診での配付(すこやかセンターにて)も行っている。 ・学校司書の研修では、「読書センター」や「情報・学習センター」としての図書館のあり方を研修した。学校図書館機能のさらなる充実につながっている。 ・27年度の一人平均の読書量は、小学校135.3冊(H26 124.8冊)、中学校25.3冊(H26 24.8冊)であった。図書館システムを利用した相互貸借他、児童生徒の貸出状況を把握し、読書についての司書の適切なアドバイスが図書利用充実に効果的であった。 ・小松市図書館を使った「調べる学習コンクール」は全国コンクールにつながる地域コンクールとして25年度、第1回を開催した。第3回目となる27年度は市内全小中学校より1,851名(H26 1,412名)の参加があった。学校による1次審査を経て、2次審査を読書活動推進委員により実施し、全国コンクールに25点推薦した。 ・学校図書ボランティアの支援を得て「十九番館お話の会」を空とこども絵本館別館にて実施した。 <p>☆図書ボランティア連絡会は年に1度のボランティア同士の情報交換の場となっている。交流する時間が十分ではないので、開催時間を延長するか、複数回開催するかを検討しなければならない。</p>
	<p>○生徒指導の充実【2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的な生徒指導の推進 ・いじめを見逃さない学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめに向かわない学校風土・学級風土づくりに向けて、各校では生徒指導の3機能を生かした教師の関わりを中心とした「児童生徒の居場所づくり」に努めるとともに、児童会生徒会が主体となった「絆づくり」について積極的に取り組んだ。 ・平成27年度は、すべての学校において学校いじめ防止基本方針を策定し、未然防止等の取組を組織的、計画的に行った。また、年度末には28年度に向けて基本方針の点検と見直しを行った。 ☆「いじめはなくなる」といわれるが、なくする方向で原因を正確に把握することにより、具体的で適切な対応をとることが必要となる。

<p>○道徳教育の充実【2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・推進校の指定 ・保護者や地域住民との連携 ・道徳の授業実践の啓発 ・いしかわ版道徳教材の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・小松市立稚松小学校・南部中学校を道徳教育推進校に指定し、道徳の授業力向上に向けた研修や家庭地域と連携した取組の推進により、教育活動全体を通じた道徳教育や道徳の時間の充実が図られた。 ・「人と地域を生かした道徳教育講座」を開催し、いしかわ版道徳教材を活用した授業や、保護者が参画する授業等、家庭や地域の力を生かした道徳教育について市内外に発信することが出来た。また講座では保護者との意見交流会や、講師による講演会を通して、今求められる道徳教育について家庭や地域とともに考えるよい機会となった。 <p>☆教科化を控え、道徳の授業改善が課題である。今求められる授業像を共通理解できる研修の場が必要である。また、ふるさと教材の活用と啓発もさらに図っていく必要がある。</p>
<p>○不登校いじめ対策・教育相談事業【2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・心の相談員の配置 <p>・教育相談事例検討会</p> <p>・スクールソーシャルワーカーの配置</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校、登校しぶり、学校生活へのつまづきのある児童への対応、保護者相談を行った。 ・心の相談員配置は27年度小学校19校に配置した。児童生徒の悩みは複雑化し、増えてきており、原因も多様化している。県配置のスクールカウンセラーは、配置校数と配置時間ともに増えたため、心の相談員配置学校数は減少したが、学校は今後も心の相談員の配置を望んでいる。 ・教育相談事例検討会では、10校に大学教員や医師等の専門家を派遣し、支援を要する児童生徒の支援策策定及びよりよい支援体制のあり方に対してアドバイスを行った。 <p>☆学校全体で組織的に支援できる体制を充実させていく必要がある。</p> <p>☆スクールソーシャルワーカー2名の配置は、問題行動等の未然防止や早期発見・早期対応に大変有効である。特に、長期化・複雑化が予想されるような事案に対して、具体的な方策を適切に助言できた。今後も継続して配置していきたい。</p>
<p>○小松市緊急危機対応サポートチーム【2】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重大な事件・事故・災害発生時の学校に対する緊急支援 ・児童生徒・教職員・保護者へのメンタルサポート 	<ul style="list-style-type: none"> ・各分野の専門家による指導・助言等により、迅速かつ有効な学校支援を行うことができた。 ・年度初めに連絡会を行い、マニュアルの内容や体制の確認や見直しを図り、平時からの関係機関の連携強化を確認した。 <p>☆これまでの事案を整理・分析したり、ケース検討会を実施したりして、マニュアルの内容をより充実化することが必要である。</p>

<p style="text-align: center;">3 豊かな心の育成</p>	<p>○体育・スポーツの普及と振興【3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育備品の充実 ・体育の振興 ・全国大会選手派遣 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の運動促進を図るため、体育備品の補充を行った。 27年度は、安全性を優先し、老朽化したサッカーゴールや防球フェンス等を廃棄し、新規購入した。 ☆今後も安全性を重視し、継続的に体育備品を補充する必要がある。 ・器械運動競技大会や水泳記録会、相撲教室などの開催で、運動の意欲化、競技力の向上と児童の健康・体力の増進を図った。 ☆今後も安全性を確保しながら、体育の振興に努めていきたい。 ・運動部活動は専門的指導を求める生徒のニーズに応え、充実と活性化が図られている。また、児童生徒の体力の向上や明るさ、活力の育成で、スポーツ全体の振興を図った。 ・外部指導者派遣の充実により、選手の育成・強化を図った。 ☆全国大会などに継続して出場するためには、選手の更なる育成・強化が求められる。 ・大会補助：中学校11回、高等学校16回 予算が不足した際には、補正で要望し対応
<p style="text-align: center;">4 健やかな体の育成</p>	<p>○学校における保健・安全の推進【3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校環境衛生事業 ・災害に対する避難訓練 ・学校給食アレルギー対策 <p>○学校給食事業【3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食用器具の充実 ・学校給食地場産物の活用 ・給食普及充実 ・給食調理等業務の民間委託【新規】 	<ul style="list-style-type: none"> ・測定や点検などにより、適切な環境づくりのための施設の整備等に指導助言を行った。 ・地域と連携した避難訓練を全小中学校で実施し、校地外での避難場所と避難ルートを確認することができた。 ・災害においては、的確な判断力が求められるため、昨年度までの3年間で市内35校すべてでDIG(図上)訓練を消防署と連携し、実施した。 ☆今年度からさらに充実した形での訓練を3年計画で企画し実施していく。 ・給食のアレルギー対策については、市の基準に基づき、管理指導票の提出を求め、学校の設備に応じた対応を行った。 ☆平成28年度はアレルギー実施基準を見直し、より安全性の高いアレルギー対応をしていく。 ・器具の更新により、安全面、衛生上の改善を図った。 ・学校給食に地元のお米を使用することにより、児童・生徒が郷土に関心を持ち、食への意識を高めている。また、国の第2次食育推進計画の目標値である「学校給食における地場産物の使用割合30%以上」を達成した。 ☆小松とまとなどの小松市の特産品を学校給食にますます取り入れていく。 ・学校給食が安全で衛生的に行われるよう消耗品更新や給食に携わる職員の検便を実施し、また、資質向上のため各種研修会に参加した。 ・3校(芦城小・第一小・南部中)の給食調理等業務を民間委託した。民間の専門的な知識・技術を活用し、安全安心で魅力のある給食を提供した。 ☆平成28年度はさらに3校追加して民間委託し、今後もさらに推進していく。

5 家庭地域との連携	<p>○小中の連携【1・2】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各中学校区における小中連携の取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 板津中学校区では小中連携による組織的な学力向上の取組が進められており、公開研究会を通して市内外にその取組を発信した。 ☆今後も、小中9年間の学びの連続性を大切にし、各中学校区の状況を踏まえ、学習指導や集団づくり、生徒指導の充実における連携を積極的に推進したい。
	<p>○幼保小の連携【1・2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報交換 行事交流 	<ul style="list-style-type: none"> 新就学児童の様子や現状について、幼稚園・保育所の視察に小学校から出向いたり、就学に向けて幼稚園・保育所からの情報提供を受けた。 各小学校の実情や特色を生かして、秋祭りや新入生を迎える会等の行事を中心に子ども同士の交流が図られる機会を設けた。 ☆幼稚園・保育所から小学校の生活へとスムーズにつなぐためのスタートアップカリキュラムを作成について協議したい。
	<p>○中高の連携【1・4】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市立中学校の研究発表会等への高校教員の参加 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の研究指定校の中海中学校の発表会に高等学校の教員が参加し、授業や指導改善について議論を深める機会をもった。 ☆次年度、市立高校の英語キャンプに市立中学校の生徒が参加し、英語教育の充実という視点で連携を深めていく予定である。
6 その他	<p>○勝木賞基金事業【1・2・3・4】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2月 1日 勝木賞選考委員会 2月25日 勝木賞授与式 2名に授与 	<ul style="list-style-type: none"> 科学に対する興味・関心が高く、且つ研究意欲に富み、人文・自然科学ともに学業成績優秀な中学3年生に毎年、勝木賞を授与している。全国的に科学への興味や関心の低さが課題となっているが、勝木賞は、自然科学等に関心をもつ生徒の憧れの賞であり、受賞者の喜びは大きい。27年度は、勝木賞選考委員会の審議を経て、2人の中学生に勝木賞を授与した。 ☆今後はサイエンスヒルズと連携をとりながら、様々な手だてや施策を工夫しながら、理科・科学好きの子供の育成を図ることが重要である。
	<p>○広域通学モデル校事業【2・3】</p> <ul style="list-style-type: none"> 募集案内のチラシを小・中学校保護者に配布 11月9日・1月15日 西尾小学校説明会 1月14日 松東中学校説明会 <p>平成27年度 広域通学/在籍児童生徒</p> <p>西尾小学校 20人/31人</p> <p>松東中学校 16人/95人</p>	<ul style="list-style-type: none"> 西尾小学校、松東中学校をモデル校に指定し、児童生徒や保護者の学校選択のニーズに対応し、通学区域外の児童生徒を受け入れている。西尾小学校では、小規模校のメリットを生かした少人数指導、地域との連携による体験活動などを活発に実践した。松東中学校では、学区内の小中連携教育を展開し、外国人講師による英語指導や教師の小・中交流授業で学力向上を目指している。この制度により、地域の活性化にも大きな役割を果たした。 ☆H22年以降、西尾小学校の児童数が年々減少している。広域通学の応募者数を増やすことが課題である。今後も説明会を2回開催し、広域通学の制度・魅力を知らせていきたい。

6 その他	<p>○広報「教育こまつ」の発行【1・2・3・4】</p> <p>小松市の教育活動を知らせる広報誌として「教育こまつ」を作成し、市内全教職員をはじめ、教育関係者や関係機関に毎月1回配布している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の各種事業の実施状況や市内小・中・高等学校の教育実践を紹介する広報誌として昭和43年に発刊以来、575号(3月時点)を数えた。 ・小松の教育状況を市内教育関係者及び市議会と共有する資料としてその価値は高い。 <p>☆今後も発行を継続するとともにさらなる紙面の充実、保存・管理が重要である。</p>
	<p>○こまつ子ども歌舞伎継承事業【4】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・27年度上演校 御幸中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内中学校の持ち回りによる「勸進帳」の上演も 30回目となり、4巡目を迎える。27年度は、御幸中学校が上演した。 ・保護者、地域住民にも公開され、地域と一体になって伝統文化財産を共有する機会としても大きな価値を持っている。 <p>☆今後は学校規模に応じた生徒主体の取組を工夫する必要がある。</p>
	<p>○いしかわ学校版ISO【2】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全小中学校が「いしかわ学校版環境ISO」に参加し、各校では、環境行動計画書に基づき、実践が行われた。 <p>☆今後は、KEMSとの連携を図り、学校と市が一体となったPDCAサイクルの取組が必要である。</p>

施策2 教育環境の整備充実

<学校施設の整備充実>

〈方針〉 学校施設・設備の適正な管理，多様化する学習内容に対応した施設の整備，災害避難施設としての機能を有する学校の施設整備を推進し，安全・安心な教育環境を目指す。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
1 安全・安心な学校施設の整備充実	○ 小中学校天井対策費 (小学校) 稚松小，犬丸小，第一小，苗代小，向本折小， 今江小，日末小，符津小 (中学校) 芦城中（武道場），丸内中，南部中，安宅中， 板津中	・吊り天井落下防止ネットの設置により，安全・安心な教育環境を整えるとともに，災害時の避難所としての防災機能を強化した。
	○ 小学校屋外運動場リフレッシュ費 安宅小	・粘性土であった土をグラウンドに適した土に置き換えるなどして、水はけを改善し，屋外教育環境の向上を図った。
	○ 小学校プール衛生設備更新費 安宅小，今江小，東陵小	・プール循環ろ過装置の更新により，安全で衛生的な教育環境を整えた。
	○ 小中学校フィールド芝生化事業 稚松小，苗代小	・児童が積極的に屋外で活動する機会が増え，環境やエコに関する興味や関心を抱く児童も増加した。 ☆今後も児童の健康増進や体力向上，環境教育の一環として芝生化事業を推進したい。
	○ 学校施設環境整備事業 小中学校施設の小規模改修・修繕	・年間100件を超える施設修繕を行い安全・安心な施設環境の維持に努めた。 ☆ただ，改修の必要な施設が多くあり，今後も計画的に安全や安心，衛生面を優先的に，施設修繕を実施していきたい。
2 安全・安心な学校管理	○ 学校施設保安管理事業 小中学校施設設備の保守点検	・学校設備の保守点検を実施し，安全・安心な教育施設の維持に努めた。 また，仕様書を見直す等して経費の削減を図った。
	○ 小中学校運営事業 学校独自の配当予算による学校運営	・各学校独自の予算配当により，それぞれの学校において，自主性を持った教育環境の整備の遂行が可能となっている。 ☆限られた予算の中で，効率的で有効な予算執行により教育環境の充実を図る必要がある。

施策3 生涯学習の振興

<思いやりと生きがいに満ちた活力ある地域社会づくりの推進>

(方針) 市民の学習意欲の高まりと多様化するニーズに応え、一人一人が思いやりと生きがいに満ちた生活を創造できるよう、活力ある地域社会づくりに努めるとともに、生涯学習、ボランティア活動の推進等、時代の進展に対応した学習機会の確立を目指す。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
1 社会教育委員	<p>○ 社会教育委員の設置【1】 行政と住民のパイプ役となり、住民の代弁者的役割を有し、社会教育計画の立案を行い、社会教育事業を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会教育委員 10名 ・会議の開催回数 4回 	<p>・社会教育法に基づく社会教育全般への提言、青少年教育に対する助言・指導を実施していくよう、小松市の現状や問題点、今後のあり方等について調査・検討した。</p>
	<p>○ 社会教育賞選考委員会【1】 社会教育の振興に尽力し、地域社会の発展に貢献した個人、団体に社会教育賞を贈る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月29日 選考委員会 ・2月11日 社会教育賞表彰式 4名 1団体 (青少年健全育成大会内にて) 	<p>・社会教育賞の選考においては、各団体等からの推薦に基づき、厳正かつ公正に行った。</p>
2 生涯学習推進体制の充実	<p>○ 公民館活動事業【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館組織 中央公民館 1館 地区公民館(市立公民館・校下公民館)34館 各町分館 228館 ・公民館活動 各種学級や講座の開催 スポーツ・レクリエーションに関する地域の大会・集い その他、地域活動の支援 ・公民館職員研修 館長・主事研修、ブロック研修、派遣研修等 	<p>・地域の連携と自治力を高め、地域に根ざした生涯学習活動を進めるため、各種教室や主催事業の開催、生涯学習情報の収集と提供、地域活動事業への支援を行った。</p> <p>☆今後も各地域の取り組みに対して指導・助言する一方、公民館相互の交流を図ることで、地域全体の生涯学習活動の活性化につなげたい。</p> <p>☆多様化する住民ニーズを的確にとられ、より一層、地域の実情に応じた生涯学習活動を推進していきたい。</p> <p>・時代に即し、市民協働による持続可能な地域づくりを進めるため、その推進力として公民館活動を位置づけ、平成27年7月にふるさと共創部はつらつ学習課を設置した。</p> <p>☆公民館をはつらつとした「ひとづくり」と「共創」の場としていきたい。</p>
	<p>○ 生涯学習施設の運営【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松市芦城センター 平成27年度利用者数 66,708人 (対前年比 +3,491人) ・小松市第一地区コミュニティセンター 平成27年度利用者数 56,669人 (対前年比 +4,426人) ・西俣自然教室 平成27年度利用者数 2,011人 (対前年比 +866人) ・丸山研修センター 平成27年度利用者数 31人 (対前年比 △44人) 	<p>・前年に比して多くの利用があった。</p> <p>☆今後も効果的な運用のあり方を求めていく。</p> <p>・平成23年度より、施設使用料を有料化した。</p> <p>・夏季には子ども会や青少年団体等の利用があり好評だった。今後とも、施設の充実を図っていく。</p> <p>・平成27年度から丸山研修センターを丸山町町内会へ委託した。</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・図書館 平成27年度貸出者数 65,990人 (対前年比 +1,229人) 平成27年度貸出冊数 271,492冊 (対前年比 +8,936冊) ・南部図書館 平成27年度貸出者数 30,352人 (対前年比 +1,171人) 平成27年度貸出冊数 116,486冊 (対前年比 +1,853冊) ・視聴覚ライブラリー 各種地域団体に対して視聴覚教材及び機器の貸出を行った。 ・空とこども絵本館 平成27年度入館者数 30,715人 (対前年比 +682人) 平成27年度貸出冊数 37,960冊 (対前年比 +11,013冊) ・絵本館ホール十九番館 平成27年度入館者数 2,197人 (対前年比 △1,640人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度と比較すると、利用者数、貸出冊数ともに増加し、これまでの減少傾向を止めることができた。 ・今年度は、利用者自身で貸出を行えるセルフ貸出機を設置した。プライバシーの保護やカウンター混雑解消につながった。 ☆様々な資料の展示、講座等を実施し、今後とも利用者増に繋がるよう努めたい。 ・南部図書館の開館10周年を機に、記念講演会を開催した。フリーアナウンサーの大橋のり子さんに『朗読の魅力 言葉の力』と題し、講演いただいた。 ・劣化が懸念されていた郷土に関する16ミリフィルムをデジタル化し、DVDに保存することができた。昭和30年代の小松に関するものであり、そのDVDで解説付きの上映会を行ったところ、大変好評であり、ふるさと教育の一助となった。 ・平成27年4月から貸出可能冊数を一人5冊から7冊に増やしたことにより、昨年度と比較すると、利用者数、貸出冊数ともに増加した。 ・絵本を仲立ちに、家族の語りかける言葉を通して子どもが絵や物語に出会い、豊かな時間を過ごすことができる施設であり、乳幼児期からの心と言葉の育成に大きな効果が期待できる先進的な施設として高い評価を得た。 ・絵本を介して、親子が楽しく過ごす一環としてのイベントの開催や、読んでもらう楽しさを十分に味わえるよう、種々に工夫したおはなし会などを行った。 ・文化的イベントの開催会場としての利用が徐々に増加し、小規模ではあるが文化行事の発信施設として市民に認知されつつある状況は評価できる。 ・児童文学者松居直氏より、寄付を受けた資料を展示し、市民グループと一体となって絵本の魅力を発信するよう努めた。 ☆27年度は26年度と比較して利用件数は増加したものの、長期間の展示会等がなかった為入館者数は減少した。今後は絵本文化の発信をしながら、貸し館としても多くの入館者に親しまれる施設運営をしていきたい。 ・市民グループ「松居直コレクションプロジェクト」が児童文学者松居直氏から寄贈を受けた資料を常設・企画展示し、絵本文化の継承に努めた。
<p>○ 学校開放推進事業【3】 市内小学校25校の体育館・運動場、中学校10校の体育館を学校教育活動に支障のない範囲で開放し、市民の生涯スポーツ活動の場として提供した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度利用者 261団体 (対前年比 +51団体) 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校体育施設の開放に伴い、各学校に管理指導員を配置し、使用団体の日時の調整を行っている。管理指導員の方々と情報交換をしながら施設の適正な利用がなされるよう努めた。市民の生涯スポーツ参加と健康増進に寄与している。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 生涯学習推進体制の充実</p>	<p>○ 成人式事業【4】 新しく成人となった若者を祝い励ますとともに、社会の一員となることの認識を促すため成人式を開催した。新成人による成人式実行委員会を組織し、式典の企画・運営に携わってもらった。</p> <p>・第68回小松市成人式 日時:平成28年1月10日(日)11:00～ 場所:小松市末広体育館 出席者:新成人949名 保護者・来賓</p>	<p>・「自分たちで作る成人式」という意識のもと、アトラクションの企画や当日の運営にあたった。厳粛な雰囲気の中、円滑な式典の進行ができ、アトラクション・式典ともに好評であった。</p> <p>・次第を庁内印刷に切り替え、経費削減を図った。</p> <p>・写真撮影時の動線を確保することで誘導をスムーズに行い、時間短縮を図った。</p> <p>・式典に際しての成人の着席に苦慮している状況がある。今年度は新成人が率先して着席を呼びかけ一定の効果は得られた。</p> <p>☆来年度実行委員には、4月に新成人宛てにはがきを送付して募っているが、応募が少ない。広報こまつにチラシを折り込み、全世帯に配布し募集したい。</p> <p>☆会場設営等については、晴れの日での式典としてふさわしくなるよう、細部について配慮・改善を行いたい。</p>
	<p>○ 人権教育推進事業【2】</p> <p>・人権啓発学習用リーフレットの作成 小学1年生、小学4年生、中学1年生の児童・生徒全員に配付</p>	<p>・学校の授業や人権について家庭で話し合う資料として活用した。</p> <p>・リーフレットについては、毎年、学校にアンケートを取り、意見・要望があった場合は学校教育課と協議のうえ、改訂を行った。</p> <p>☆より具体的な意見・要望がもらえるようアンケートの内容や配布方法を見直すなどして、事業の成果を検証していきたい。</p> <p>☆学校教育課等と相談し、内容を精査したうえで、今日的な人権問題を盛り込むようにしたい。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 活力ある地域づくりの推進</p>	<p>○ グッドマナーキャンペーン事業【2】 青少年の公共マナー等に対する規範意識を高めるために、石川県心の教育推進協議会が主催となって行うキャンペーンに小松市も賛同している。期間中は青少年の健全育成に関わる協力機関・団体・小中高等学校と連携、協力し、声かけ運動を行った。</p> <p>・9月1日～30日 市内小中高で声掛け運動の展開・のぼり旗の掲示 ・9月14日～18日 関係団体と連携し、市内3駅・各中学校・高校における声掛け活動</p> <p>○ 学校・家庭・地域連携推進事業【4】 地域住民や豊富な社会経験を持つ外部人材等の協力を得て、学校・家庭・地域の連携協力による様々な取り組みを推進し、社会全体の教育力の向上及び地域の活性化を図る。</p>	<p>・1週間の強化週間を設定し、市内3駅、6高等学校・全小中学校においてあいさつ運動とマナー向上のよびかけを行った。各市民団体から約400名の参加協力をいただき、県内では際立って多くの参加人数でキャンペーンを展開することができた。</p> <p>☆一定の場所に参加者が固まり、駅利用者や登校する生徒がしり込みするという意見もあり、参加する日や場所が分散されるよう工夫したい。</p> <p>☆今後も関係団体や協力機関等と連携し、運動を維持・継続していきたい。</p> <p>・平成26年度より中海小学校区において土曜学習を実施し、子ども達にとってより豊かで有意義な土曜日を実現した。平成27年度は6小学校区において公民館を中心として実施した。</p> <p>☆地域の実状や人材に合わせ、より有意義な土曜学習となるよう関係団体との連携を図りたい。</p>

<p>○ 少年育成センター事業【3】 少年の育成活動を総合的に推進し、少年の非行を防止するとともに、その健全な育成を図った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・少年の健全な育成・非行防止のための、早期発見及び早期指導を目的として育成員による日々の巡回パトロールを行っている。育成員による子ども達への声かけが増えることにより、防犯への意識づけがなされた。 ・研修会では地区ごとに分かれて意見交換会を行うことにより各地区の危険箇所や有害環境を確認することができた。 <p>☆今日的な非行問題・事件等を踏まえ、教育委員会組織としても特別巡回などに取り組んでいきたい。</p> <p>☆育成員によって巡回パトロールの頻度に差があるため、出来る限りパトロールを実施するよう育成員に促していきたい。</p>
<p>○ 「早寝早起き朝ごはん運動」事業【3】 子どもたちの生活のリズム向上と、家庭・地域の教育力を高めることを目指し、「大人が変われば子どもも変わる。」をスローガンとして、運動を推進した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民大会の開催(11月15日) ・「我が家の標語」「我が家の朝ごはん」「ポスター・絵画」の募集と表彰 ・リーフレットの配付 ・生活習慣チェックシートの実施 ・カレンダーの配付(市内全戸) ・地域でのラジオ体操活性化の取組の募集と表彰 ・幼保小へののぼり旗の配布 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域におけるラジオ体操活性化の取組募集では、地域の子どもたちに「早寝早起き朝ごはん運動」を広める取組や地域の行事と連携した取組が寄せられ、市民大会において、標語やポスター、朝ごはんレシポの部門とともに表彰した。 <p>☆近年は携帯電話の長時間使用により、生活リズムが乱れつつあると指摘され、これまでは「朝ごはん」に重点を置いていたが、早寝早起きに関しても一層の啓発が求められる。</p>
<p>○ わくわく・ちゃれん寺事業【4】 子どもが人と触れ合う機会や、伝承文化や伝統遊び、ふるさとの良さに触れる機会が減少してきている。そこで、地域にあるお寺を伝統文化を学ぶ場として活用し、子ども同士や子どもと大人が触れ合う良い機会とし、地域の活性化を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月～12月 28回開催(対前年比△5回) ・協力団体11 協力寺院6 ・参加人数 子ども517人 大人301人 (対前年比 子ども △11人 大人 △8人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・充実した教室を開催することができた。教室の良さが市民の間に浸透してきているようである。 <p>☆今後も、伝統文化や伝統遊びが継承されていくように内容を吟味し、子どもたちにふるさとの良さに触れさせることにより特色ある地域の活性化を図っていきたい。</p> <p>☆アンケート調査の結果をふまえ、ニーズに合った教室の企画・開催が今後の課題である。</p>
<p>○ サマー・アドベンチャースクール事業【3】 自然体験活動を通して、自然を愛する心を育てるとともに、自然の中での共同生活を通して自主性や社会性を養う。</p> <p>期 間 7月25日(土)～8月1日(土) 7泊8日 場 所 大杉冒険のとりで 参加者 小学5年～中学2年 32人 (対前年比 △1人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「力を合わせて生活すること」を目標に、日々の食事づくりを始めとして多くの活動を通して参加者が自主的に取組むように指導した。 ・常に危険と隣り合わせであるという視点から、会場外の状況についても情報を得ながら、健康・安全管理を徹底し、また、常に非常時にも迅速に対応できるよう備えておくことが必要である。 <p>☆後断者育成も視野に入れた運営体制を構築するとともに、継続的实施に向け事業内容の検証と見直しを行う事が必要である。</p>

4 青少年の健全育成	<p>○青少年教育施設の運営【3】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山自然学校大杉みどりの里 <p>平成27年度 利用団体 167団体 (対前年比 △9団体) 利用人数 8,877人 (対前年比 △1,177人)</p>	<p>・主な利用者は、小学校や子供会などの青少年団体等であり体験宿泊学習に利用される。また、年々高校の勉強合宿が増えた。</p> <p>☆雪祭りの実施を見送ったが、次年度より施設の開放デーを設け施設の周知に努める。新規に四季を通した主催事業「大杉わくわく自然塾」を実施、好評を得たことから継続的に実施する。</p> <p>☆今後の課題として、周辺施設との連携を図り、閑散期の利用促進に取り組み、企業研修や勉強合宿などの誘致を行いたい。</p>
	<p>○管理運営事業【2・4】</p> <p>「小松っ子を育てる市民会議」へ交付金を交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育講演会共催 ・機関誌 年1回発行 ・青少年健全育成看板の設置・補修 	<p>・小松市民が一体となって青少年の健全育成について協議、連絡提携を図り、幅広い活動を展開した。</p> <p>☆小松の子どもたちの指針となるべき「小松っ子憲章」が平成25年度に制定された。今後、この憲章の普及啓発を図っていききたい。</p>
	<p>○青少年育成団体活動への支援事業【2】</p> <p>青少年健全育成団体へ運営補助金を交付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小松市子ども会連合会 ・小松市立学校PTA連合会 ・青少年自然教室協会 ・日本ボーイスカウト小松協議会 ・小松市少年少女科学教室・発明クラブ 	<p>・青少年に対し組織的に教育活動を行う団体へ運営助成をすることにより、幅広い地域の青少年健全育成活動が実施された。</p> <p>☆各団体と更に協議の上、補助金額を精査し、適切な執行につなげていききたい。</p>
	<p>○放課後児童クラブの運営【2・3】(新規)</p> <p>夫婦が共働きであるなど、日中に保護者が家庭にいない児童に対し、放課後の遊び・生活の場を提供し、子どもの状況や発達段階を踏まえながら、健全な育成を図った。</p> <p>市内クラブ数:33クラブ 登録児童数:1,766名</p>	<p>・少子化により児童数自体は減少傾向にあるが、共働き世帯の増加・平成27年度からの利用対象年齢の引き上げ等に伴い、利用者数は年々増加している。</p> <p>・平成27年7月には運営基準を制定するとともに、基準を基にクラブによる自己点検及び青少年育成課による実地調査を半年ごとに行い、支援員の資質の向上に努めた。</p> <p>☆クラブと青少年育成課が課題について共通認識を持ち、協力して改善を行っていききたい。</p> <p>☆利用数が増えるにつれ、宿題やクラブ生活でつまづきが見られる児童も増えている。学校・幼保こども園・クラブ・青少年育成課の連携を強化し、切れ目のない児童の支援を目指したい。</p>
	<p>○スマイルハート賞表彰【2】(新規)</p> <p>小松市立小・中・高等学校に在学する児童・生徒及びこれらのものを構成員とする団体を対象とする。表彰要綱に基づき、社会教育委員が選考にあたった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11月17日 選考委員会 ・2月11日 スマイルハート賞表彰式 7団体 (青少年健全育成大会内にて) 	<p>・児童・生徒が主体的に取り組んでいる善行を表彰するために、平成27年度に創設した。他者を思いやる気持ちや地道に努力することの大切さを伝え、活動の裾野を広げていくことを目的としている。</p> <p>☆思いやりの心や規範意識の醸成、社会貢献意欲の育成のため、活動の裾野を広げる仕掛けも検討していききたい。</p> <p>☆今後も少しでも多くの子ども達の励みになるよう事業を充実していききたい。</p>

○ 青少年健全育成大会の開催【2・4・5】(新規)

平成27年度より開催。青少年が様々な困難に遭遇しても、自分の夢や目標を諦めることなく、将来に向かって前向きに積極的に生きていけるよう地域の力を結集する「きっかけ」となり、学校・家庭・地域が共通の意識をもって連携を深めることを目的として開催。

日時 2月11日(木・祝)

場所 こまつ芸術劇場うらら 大ホール

・オープニングアトラクション

市立高校吹奏楽部演奏

・表彰式

スマイルハート賞 7団体

市社会教育賞 4名 1団体

・講演

「出張! ゴルゴ塾 命の授業」

講師: ゴルゴ松本氏

・青少年健全育成支援団体活動報告(展示)

※協賛団体・・・139団体

・大会では多くの方が参加し、家庭・地域と連携しながら青少年の健全育成に対する意識を共有できた。

☆大会終了後、参加者へ実施したアンケート結果を分析した。今後更に充実した大会になるよう、つなげていきたい。

施策4 文化振興

<伝統文化の継承と新しい文化の創造・発信>

〈方針〉 歴史的・伝統的な文化を保存継承し、固有の文化を誇りとする郷土愛を育み、それを礎として新しい文化を創造・発信する。また、優れた文化に接する機会の充実をはかるとともに、地域における個性的な市民文化の高揚を支援し、心の豊かさを実感できるような環境整備を目指す。

項目	事業の名称及び実施概要	評価
1 文化財の保護と活用	<p>○ 重要文化財保存修理事業【4】 国庫補助事業による重要文化財の保存管理</p> <p>・名勝おくのほそ道の風景地 那谷寺境内(奇石) 保存管理計画策定事業 平成 26 年 3 月 18 日付けで国名勝に指定された「おくのほそ道の風景地 那谷寺境内(奇石)」について、その保存管理に万全を期すため保存管理計画を策定するもの。平成 27 年度・28 年度の 2 年事業として実施。</p>	<p>・国民共有の財産である重要文化財は、国庫補助による保存管理が必要に応じて実施された。</p> <p>・平成27年度は、指定地全体の測量と図面作成を委託により実施するとともに、策定委員会を2回開催。計画どおりに実施した。</p>
	<p>○ 文化財保存管理事業【4】 文化財指定や指定文化財の保存修理・活用等を行い、広く市民に文化財愛護精神の普及をはかる。</p> <p>・文化財調査委員会の開催(3回) ・市指定文化財の保存修理等に対する補助 ・指定史跡「浅井啜古戦場」「御幸塚古墳」「埴田の虫塚」の管理委託 ・指定文化財看板・標柱の整備 ・ホームページを活用した文化財の普及啓発 ・憩いの森内にある中村家(国指定民俗有形文化財)と米谷家(未指定茅葺民家)の管理・活用</p>	<p>・文化財調査委員会にて審議を重ね、平成27年度は小松市指定文化財を2件指定。市内にある文化財の保護活用を図った。</p> <p>・指定文化財の修理補助等については、保存・継承を図るための取り組みを適正に行った。</p> <p>・指定文化財の看板・標柱の整備は、老朽化したものから順に整備を行い、文化財の普及啓発に努めた。なお、ホームページを活用した普及啓発にも努め、ホームページリニューアルを目指して作業を進めた。</p> <p>・憩いの森内にある民家の管理については、前年の台風被害に伴う米谷家屋根棟部修理工事を実施し、適切な管理を図った。</p>

<p>○ 埋蔵文化財センター活動事業【4】 埋蔵文化財の調査成果を広く市民に公開し、埋蔵文化財保護意識の啓発をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別講演会「こまつ原始の森と人」(参加者104名) ・フォーラム「小松発・北陸新幹線ルートの弥生を探る」(参加者315名) ・特別体験講座(参加者230名) 矢づくり、縄文土器づくり、藍の生葉染め、古代瓦づくり、弥生土器づくり、土器プラバンづくり ・古代体験夏・春まつり(参加者487名) 小学生の夏・冬期間中に合わせて開催した親子参加型の古代もの作り体験イベント ・出前考古学教室(参加者2,941名) 学校、公民館等の派遣要望により考古学教室開催(34カ所を実施) ・年4回の特別展を実施(展示観覧者5,547名) 「木・木・考古学」 「加賀国府誕生の地を探る」 「北陸新幹線ルートの弥生文化を探る」 「校下別代表遺跡で語るこまつ歴史年表」 ・市民講座「加賀国府を考えるpart4」(参加者77名) ・普及・啓発の広報活動 6年生社会科教科書用「こまつまいぶん歴史年表」の発行と配布 ・矢田野エジリ古墳出土埴輪3D映像の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前を含む利用者数としては平成26年度の12,716人に対し12,351人とやや減となっているが、一団体の構成人数に起因した微変動である。 ・展示観覧者は、前年の5,556人とほぼ同数で、全国植樹祭やこしのくに国府サミット、フォーラム等の一大イベントに合わせた特別展が功を奏し、県外入館者が515人に達した(前年383人)。 ・サイエンスヒルズこまつの開館、そして県立歴史博物館と金沢市埋蔵文化財センターのリニューアルオープンなどで見込まれた利用者減にも、大きな影響を受けなかった理由は、出前考古学教室の実施(前年比300人増)で、市民の多様なニーズに応える当センターの機動力にある。 ・特別体験講座は、既存講座にもアレンジを加えて満足度アップに努め、いずれの講座も定員を大きく超える申し込みとなった。 ☆市民講座「加賀国府を考える」は、次年度5回目となる記念講演会で一旦、総括を目指したい。 ・授業での市内小学校利用は、昨年度に引き続き13校16クラスと高い利用率を保った。 ☆新規に6年生歴史学習用に作成した「こまつまいぶん歴史年表」は高い評価を得たが、まず、先生自身の地域理解に課題も多く、次年度以降も継続しながら周知につとめ、合わせてセンター内における春季展示内容との連携を図りたい。
<p>○ まいぶん魅力アップ推進事業【4】 授業に活用できるよう、再修復作業や教材整備を進め、また、重要資料のネット配信を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・再修復個体は82点。 ・矢田野エジリ古墳出土埴輪3D映像のネット配信 	<ul style="list-style-type: none"> ☆遺物の修復で、現物の強みを活かす授業に取り組んできたが、今後は、インターネットによる調べ物学習でも、内容の充実を目指す。 ☆本年度は重要文化財矢田野エジリ古墳出土埴輪のデータベースと、一部3D映像の配信を始めた。今後、重要文化財八日市地方遺跡出土品や「こまつまいぶん歴史年表」など配信用コンテンツを充実させていきたい。
<p>○ 古代体験学習活動事業【4】 市民に開かれた施設として、センターを活用した古代体験希望者の受け入れを休館日以外の毎日行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・古代体験(4,336名) <p>勾玉づくり、組み紐体験を通年実施。また、火起こし、土鈴づくり、かごづくり、あんぎん、はたおりを期間限定で実施。加えてガラス玉づくりを期間限定の申込み制で実施。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体験者は、平成26年度の5,544人に対し4,336人と大幅減となっている。センター利用者に大きな増減が無く、利用団体数では、むしろ前年の102団体から119団体と増加しているにもかかわらず、体験者が減となった理由は、顧客満足度優先の観点から、午前・午後1組ずつの団体対応を原則としているためである。体験を伴わない団体や、一団体の構成人数の差による変動が重なったことが要因である。 ☆団体以外の個別体験者の増を図るため、ガラス玉づくりなど新メニューの開発に取り組みたい。

○ 加賀国府こまつ歴史再発見事業【4】(新規)

加賀立国1200年に向けて、国府関連歴史遺産の調査研究及び環境整備を進め、その魅力を市内外に発信する。

- ・団地造成に伴う河田山古墳群発掘調査報告書作成
出土品整理と遺構図等のデータ化を実施。
- ・市民考古楽講座「こまつ古墳調査協力隊」
市民ボランティアを活用して、古墳の再調査に向けた準備作業を実施(参加者39名)。
- ・国府・国分寺関連遺跡の確認調査(2件)
国府推定地確認調査として、「府南社」(石部神社)の隣接地にあたる古府町南野台遺跡確認調査を実施。
白山中宮八院確認調査として、長谷町蓮華寺跡の確認調査を実施。

・本年度は魅力発信に向けた調査研究及び環境整備を重点的に行った。

・河田山古墳群については現状保存古墳の再調査に向けて、過去の団地造成に伴う発掘調査報告書の刊行を目指した(文化庁指導)。再調査の準備作業にはボランティアを募り、現地講義も兼ねて周辺測量や下草刈り等を行ったことで、生涯学習の場としての方向性も見出された。

・重要遺跡確認調査を位置づけ直した国府・国分寺関連遺跡の確認調査については、新たに国府推定地内での調査を開始した。最も良好に遺存していると考えられる石部神社周辺で出土品が検出され、解明に大きく前進したと評価できる。

☆河田山調査では、ボランティアメンバーの士気は高く、本年度はいよいよ試掘調査による新たな石室の存在確認に着手したい。

国府関連遺跡については、石部神社地や立明寺跡の調査が可能か、本年度は氏子ならびに地元との調整を進める。

○ 市内遺跡調査事業【4】

- ・開発事業との調整協議(174件)
- ・事前試掘調査・立ち会い調査(42件)
- ・市内遺跡緊急発掘調査(2件)
- ・遺跡出土品の整理
二ツ梨豆岡向山窯跡に伴う出土品整理(国庫補助事業)
八日市地方遺跡の出土品整理及び報告書刊行(市単独事業)

・昨年まで埋蔵文化財保護調整事業と埋蔵文化財発掘調査・出土品整理事業の二つに分けて記載していたが、本年度、重要遺跡確認調査が新事業の加賀国府こまつ歴史再発見事業に含めることとなったため、二つを統合し市内遺跡調査事業とした。

・本年度は北陸新幹線建設に伴う移転・代替地に関する事案も含め、協議、事前試掘調査、立ち会い調査の件数が増加した。

☆今後数年間は増加傾向が予想されるが対応体制の強化に努め、しっかりと対応していきたい。

・本年度の個人住宅等での緊急発掘調査は、概ね例年通りとなる2件で、予算の枠内で無理のない調査ができた。

<p>1 文化財の保護と活用</p>	<p>○ 市史編纂事業【4】 新修 小松市史 資料編の発行及び資料の収集・保存 ・Ⅱ期10巻の3巻目として「近世村方編」を発刊。近世小松の村々の様子を活写した資料集。史料文一辺倒にならないよう画像資料としてDVDに収録。 ・産業・建築・教育・考古部会が調査活動中。 ・広く誰でもどこでも見られる市史を目指し、小松市HPで市史を発信。『凶説 こまつ歴史』を紹介。 ・年2回(7月・11月)の市史講座と3回シリーズの古文書講座(2～3月)を開催。</p>	<p>・資料編ということで、本文は史料掲載一辺倒になりがちだが、Ⅱ期より、附録としてDVDを付け、画像資料を収録し、ビジュアル的に視覚による資料紹介を試みた。 ・本文は字面が並んで難解な感じを受けるが、DVDは画像や映像のため入りやすく、市史への理解を補い、利用者を増やした。 ☆今後発刊予定の巻には必ずDVDを付ける方向で、また写真、図面ばかりでなく、映像資料、動画も取り入れ、よりわかりやすい市史を目指す。 ・市史講座では、毎回70～80人が聴講され、常連者も増え、市史への市民の関心が高まってきた。</p>
<p>2 伝統文化の継承</p>	<p>○ 子供歌舞伎勸進帳上演事業【4・5】 第17回全国子供歌舞伎フェスティバルin小松において子供歌舞伎「勸進帳」を上演。 第18回開催に向けての取り組み 12月中旬 役者オーディション 12月下旬 結団式 12月下旬より稽古開始 本番は翌年度5月4・5日 役者13名、長唄・囃子方29名 ボランティアスタッフ 約30名</p>	<p>・役者と長唄・囃子方を市内から公募しており、役者経験者が舞台の裏方や長唄・囃子方にも継続参加するなど、伝統文化の継承に効果が現れた。 また、子どもたちの達成感においても教育的効果は高かった。 ・第18回においては、役者の応募数が17名と第17回と同様に多くの応募数となった。歌舞伎のまちこまつとしての伝統文化が市民に継承されている。 ☆指導者の負担軽減に向け、保護者及びボランティアスタッフとの連携を強化していきたい。</p>
<p>3 文化施設の活動充実</p>	<p>≪尾小屋鉱山資料館・尾小屋メインロード・ポッポ自動車展示館≫ ○ 尾小屋鉱山資料館管理運営事業【4】 資料館・メインロード・ポッポ自動車展示館の3施設を管理運営。 27年度入館者数 4,429人 (対前年比 △220人)</p> <p>≪河田山古墳群史跡資料館≫ ○ 管理運営事業【4】 河田山古墳群の調査成果をもとに古墳時代専門の資料館として平成4年に開館。入館は無料。 入館者数 1,751人 (対前年比 +823人)</p>	<p>・27年度の鉱山資料館は常設展のみであったが、28年度に外部有識者等の協力を得て新規企画展を開催すべく作業を進めた。 ・尾小屋メインロードについては、安全点検、安全工事を実施し、安全対策に努めた。 ・ポッポ自動車展示館については、「なつかしの尾小屋鉄道を守る会」の協力を得て、展示車両の公開運転や電動トロッコの運転を実施し、来館者の増加に努めた。 ☆28年度は鉱山資料館にて新規企画展を開催し、来館者の増加を図る。</p> <p>・平成27年度は、国府サミットや、埋蔵文化財センターと同時開催した国府関連の特別展もあり、入館者数は大幅増となった。 ☆今後も、加賀国府1,200年に向け、河田山古墳群の再発見と資料館のテコ入れに取り組みたい。</p>

項目	事業の名称及び実施概要	評価
3 文化施設の活動充実	<p>《こまつミュージアムパスの利用・入館》【1】</p> <p>小松市内の文化施設を期間内に何度でも利用できる「パスポート」を平成24年度より新たに導入。26年度より「こまつミュージアムパス」としてカード形式とし、スタンプラリーと分けて実施。</p> <p>(対象施設 11 施設)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館/本陣記念美術館/錦寮展示館 宮本三郎美術館/ふるさと館/登窯展示館 ・メインロード/安宅の関ものがたり館 埋文センター/河田山古墳資料館 /曳山交流館みよっさ ・1週間券 500円 1年券 1500円 ・シニア券(1年間有効)市内65歳以上に無料発行 <p>年間利用者数 ミュージアムパス 10,600人 (対前年比 +2,702人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・H24より共通券を廃止し、より広域に施設間の人の流れを作ることができるようにパスポート(各施設のスタンプラリーを兼ねる)を発行。 H26よりカード形式としてスタンプラリーと分けて実施。 ・利用者の29%が市内在住の65歳以上に配布するシニア券となっている。利用者の割合は、やや低下したものの、全体として利用者数は前年並であった。 ・各館のより魅力的な企画が入館者数、利用者数の増加に繋がった。 <p>☆今後は、対象施設全てを紹介するパンフレットを新たに作成し、販売の際に、他館利用を促し回遊性を高める。</p>
	<p>《博物館, 市民ギャラリー・ルフレ》</p> <p>○ 博物館管理運営事業【1】</p> <p>資料の調査, 収集, 保存, 管理, 展示公開及び報活動を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館協議会, 専門委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・小松の歴史文化・自然科学の広い範囲にわたる多数の調査, 収集, 保存, 管理, 展示公開及び広報活動を行った。学識経験者からなる協議会委員や専門委員会委員を開催し, 多様な市民のニーズに答えられるよう努力した。
	<p>○ 市民ギャラリー管理運営事業【1】</p> <p>博物館1階を市民の文化活動の発表, 交流及び情報交換の場として貸し出している。</p> <p>年間利用団体, 個人数46団体 (対前年比+1団体) 年間利用者数 20,768人(対前年比+1,656人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用料金が割安なことが利用率を高めた。
	<p>○ 博物館活動事業【1】</p> <p>研究紀要 Vol. 50の発刊</p> <p>加南地方史研究会, 小松市科学研究所への補助金を交付。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の文化活動・研究を援助し, 博物館の調査活動などで連携を図った。調査成果を紀要などによって広く発表した。
	<p>○ 博物館展覧会開催事業【1】</p> <p>企画展4本, 特別展2本を開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「世界の昆虫, 小松の昆虫」 (7/18~9/13, 1,794人), 「加賀九谷焼展」 (10/3~12/20, 3,377人) ・年間総入館者数 8,499人 (対前年比 +2,023人) 	<ul style="list-style-type: none"> ・加賀市, 能美市と共催で「加賀九谷焼展」、夏場に「世界の昆虫, 小松の昆虫展」を開催したことで入館者が増えた。そのほか館蔵品を中心とした企画展を年4回実施した。 ☆特別展と館蔵品による企画展を組み合わせ, より魅力的な展示を行なうとともに, 関連イベントも実施し, これまで以上に館の知名度や入館者数の増加につなげる必要がある。

<p>○ 美術品購入基金積立及び購入事業【1】</p>	<p>・総合美術館建設を視野に、美術品を購入する準備金として毎年積み立てている。</p>
<p>《本陣記念美術館》</p> <p>○ 本陣記念美術館管理運営事業【1】</p> <p>本陣甚一氏より寄贈された美術品等を管理する。</p>	<p>・20年度に遺族から新たに寄贈を受けた693点の美術品の調査を進め、順次企画展で紹介している。コレクションには、芸術的価値・歴史的価値の非常に高い作品も多数あることが判明してきている。</p> <p>☆コレクションの質の高さを、展覧会・ギャラリートークなどを通じて、市の内外に今後もアピールしたい。</p>
<p>○ 本陣記念美術館展覧会開催事業【1】</p> <p>・館蔵品展年2回、開館 25 周年特別展「本陣コレクションの魅力」(前期・後期)を開催。</p> <p>前期 9/26～12/20、後期 1/5～3/21 (全 1,453 人)</p> <p>・総入館者数 2,541 人 (対前年比 △2,362 人)</p>	<p>・収蔵品の核となる陶磁器や茶道具をとりあげた館蔵品展を開催し、コレクションの魅力を紹介した。</p> <p>・25周年特別展開催に向けて館内のリニューアル工事を実施したため開館日数、入館者数が減少した。</p>
<p>《錦窯展示館》</p> <p>○ 錦窯展示館管理運営事業【1】</p> <p>九谷焼の上絵付けに使用された錦窯を「錦窯展示館」として保存を行うとともに、古い町屋を生かした建物と庭の管理を行う。</p>	<p>・遠方よりの来館者が多く、三代にわたる徳田作品の人气が高かった。</p> <p>☆小松駅から経由して芦城公園へと歩いて回る工夫が必要である。伝統工芸品である九谷焼と小松の町屋を「松雲堂」とともにアピールすることによって、中心市街地の活性化にもつなげていきたい。</p>
<p>○ 錦窯展示館企画展開催事業【1】</p> <p>・企画展 「古九谷を目指して」</p> <p>3/14～6/28(入館者数 804 人)</p> <p>・特別展 「加賀九谷焼展」</p> <p>10/3～12/20(入館者数 1,255 人)</p> <p>・総入館者数 2,586 人(対前年比 +1,203 人)</p>	<p>・特別展1回、企画展1会、常設展2回実施した。</p> <p>☆近接する「松雲堂」との連携行事などにより入館者増に繋げることが必要である。</p>
<p>《宮本三郎美術館、宮本三郎ふるさと館》</p> <p>○ 宮本三郎ふるさと館活動事業【1】</p> <p>・宮本三郎の母校である日末小学校での[宮本三郎まなび隊]結成に対するの援助・協力を実施。</p> <p>・生誕地・松崎町内会と協働で「アートにチャレンジ」「凧作り教室」など様々な講座を月 1 回のペースで実施 (行事での参加人数 432 人)</p> <p>○宮本三郎ふるさと館展覧会開催事業【1】</p> <p>・企画展「あなたと旅気分ー風景旅行にでかけませんかー」 3/21～6/14 (入館者数 387 人)</p> <p>・企画展「絵画制作入門ーデッサンからの展開ー」 6/27～11/4 (入館者数 948 人)</p> <p>・企画展「MIYAMOTO×DESIGN」 11/14～3/6 (入館者数 563 人)</p> <p>・総入館者数 1,961 人 (対前年比 △180 人)</p>	<p>・当館から学校・団体に対してのアピールできておらず、受身の体制をとっているため、アートデリバリーを利用する学校・団体が少なかった。しかし、これまで利用された学校・団体には好評であった。</p> <p>☆館蔵作品にてテーマをもって宮本三郎の魅力を発信する展覧会を年3回開催した。展覧会開催数の減少により入館者数が減少したが、続けて宮本三郎作品の魅力をアピールしたい。</p>

<p>3 文化施設の活動充実</p>	<p>○ 宮本三郎美術館展覧会開催事業【1】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別展「山本容子展 アリス！ふたつのワンダーランド ー不思議の国と鏡の国ー」 3/21～4/19（入館者数 2,807 人） ・企画展「宮本三郎の魅力」 4/29～6/14（入館者数 1,536 人） ・企画展「わくわく美術館へようこそ！」 10/11～11/24（入館者数 1,299 人） ・特別展「第3回宮本三郎記念デッサン大賞展ー明日 の表現を拓く」 9/19～11/3（入館者数 2,164 人） ・企画展「ことばで彩るアートの世界」 11/14～3/6（入館者数 1,553 人） ・総入館者数 8,655 人（対前年比 △2,190 人） 	<p>☆館蔵品より、テーマをもって宮本三郎の魅力を紹介。団体鑑賞の減少と展示替え期間を長くとつたために、前年に比べ入館者が減少。今後も魅力的な展示を目指し、宮本三郎の魅力を全国にアピールしていきたい。</p> <p>・美術・芸術のまち小松をアピールする目的で、全国公募・デッサン大賞展と審査員・山本容子の特別展を開催した。応募者数が過去最高となった。 ☆今後も小松をアピールするため発信していきたい。</p> <p>・「美術館内で模写をしよう！」「おいしいコンサート」など、美術に親しんでもらうイベント、企画展・特別展に合わせたイベントを多数開催した。</p>
------------------------	---	--

3. 教育委員会会議および教育委員の主な活動

(1) 教育委員会会議の開催状況

回(開催日)	会議内容
平成27年第7回(臨時会) (H27.4.1)	【協議事項】 教育長職務代理者の指名について
平成27年第8回 (H27.4.16)	<p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の展覧会の開催について(美術館) ・学校給食の今後のあり方(学校教育課) ・平成27年度学級編制について(学校教育課) ・平成27年度教育センターの事業計画について(教育センター) ・平成26年度卒業生進路状況について(市立高校) ・第68回小松市成人式について(生涯学習課) ・埋蔵文化財センター上半期イベントスケジュールについて(埋蔵文化財センター) ・歴史年表について(埋蔵文化財センター) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白山の世界遺産について現在どうなっているのか。 ・小松市は日本遺産登録について働きかけをしているのか。 ・土曜学習の今年度の実施校数は。 ・交通マナーの徹底 ・訪問計画の改善
平成27年第9回 (H27.5.14)	<p>【議案第10号】 小松市立中学校教科用図書採択委員会設置要綱について</p> <p>【議案第11号】 小松市社会教育委員の選任について</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校給食の今後のあり方について(学校教育課) ・平成27年度小松市研究発表校及び研究指定校について(学校教育課) ・こまつグローバルゼミナール事業について(学校教育課) ・小松市小・中・高等学校運動会日程について(学校教育課) ・平成27年度学校訪問について(学校教育課) ・寄附の受納について(教育センター) ・平成26年度卒業生進路状況について(市立高校) ・塗師先生来校スケジュールについて(市立高校) ・サマー・アドベンチャースクールについて(生涯学習課) ・土曜学習について(生涯学習課) ・絵本館ホールの愛称変更について(生涯学習課) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館)

<p>平成27年第10回 (H27.6.9)</p>	<p>【議案第12号】 小松市社会教育委員設置条例施行規則について</p> <p>【議案第13号】 平成27年度優良PTA会員小松市教育委員会表彰について</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄附受納について【(学校教育課) ・学校給食委託事業者参加表明受付一覧について(学校教育課) ・平成27年度小松市教育センター研究会について(教育センター) ・中学校サイエンスチャレンジについて(教育センター) ・サイエンスワールドについて(教育センター) ・宇宙の学校について(教育センター) ・教育相談親の会について(教育センター) ・教育相談事例検討会について(教育センター) ・平成26年度卒業生進路状況について(市立高校) ・わくわく・ちゃれん寺について(生涯学習課) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・小松文芸作品募集について(図書館) <p>【教育委員の意見・提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7月1日から市の組織改変がある。組織に課される役割を前向きに取り組んでほしい。 ・校長がリーダーシップをとり、他の学校のよい所を取り込んでほしい。
<p>平成27年第11回 (臨時会) (H27.6.29)</p>	<p>【議案第14号】 小松市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則等の一部改正について</p> <p>【議案第15号】 小松市教育委員会事務決裁規程等の一部改正について</p>
<p>平成27年第12回 (H27.7.16)</p>	<p>【議案第16号】 教育委員会事務事業点検・評価報告書について</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスワールドⅠについて(教育研究センター) ・宇宙の学校について(教育研究センター) ・夏季休業中教育相談ウィークについて(教育研究センター) ・寄附について(教育センター) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・図書館まつりについて(図書館) ・掌講座特別編について(図書館) ・寄附について(図書館) ・市史講座について(教育庶務課) ・古代体験夏まつりについて(埋蔵文化財センター) ・河田山古墳群史蹟資料館 夏季特別展について(埋蔵文化財センター) ・「こまつチャレンジスクール」(1学期分)について(学校教育課) ・平成27年度ウォームアップ週間取組計画について(学校教育課) ・小松市学校給食調理等業務委託について(学校教育課) ・寄附について(市立高校) ・サマー・アドベンチャースクールについて(青少年育成課)

<p>平成27年第13回 (H27.8.20)</p>	<p>【議案第17号】 小松市子育てを支援する施設に関する条例の一部改正について</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はつらつ学習課の施策方針について(はつらつ学習課) ・教職員夏季研修報告について(教育研究センター) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・ビブリオバトル報告について(図書館) ・下半期イベントスケジュールについて(埋蔵文化財センター) ・平成28年度市立高校採択希望教科書について(学校教育課) ・体験入学について(市立高校) ・英語検定受験状況について(市立高校) ・平成27年度グッドマナーキャンペーンについて(青少年育成課) ・子育てセンターの指定管理について(青少年育成課) <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生の自転車マナーの指導をしてほしい。
<p>平成27年第14回 (臨時会) (H27.8.27)</p>	<p>【議案第18号】 中学校教科用図書採択について</p>
<p>平成27年第15回 (H27.9.11)</p>	<p>【議案第19号】 平成27年度(第29次)小松市指定文化財について</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館・美術館の展覧会について(博物館・美術館) ・宇宙の学校について(教育研究センター) ・サイエンスワールドについて(教育研究センター) ・こまつ市民読書の日 掌講座について(図書館) ・教育大綱アクションプランについて(教育庶務課) ・ウォームアップ週間の成果と課題について(学校教育課) ・平成27年度卒業式について(学校教育課) ・体験入学アンケート結果について(市立高校)
<p>平成27年第16回 (H27.10.15)</p>	<p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細川律子さんのおはなし会について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・DVD上映会について(図書館) ・市史講座について(教育庶務課) ・フォーラム 小松式土器の時代Ⅱについて(埋蔵文化財センター) ・市民考古楽講座について(埋蔵文化財センター) ・広域通学モデル事業の実施について(学校教育課) ・子供歌舞伎「勸進帳」出演者の募集について(青少年育成課) <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育長職務代理者の指名について <p>【教育委員よりの意見・提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員は、社会全体を見ることが子供の教育にも影響するので、いろいろな活動に参加し視野を広めることが大事である。 ・グッドマナーキャンペーンを見て感じたことは、大人があいさつをするような雰囲気作りをしないと、子ども達だけに求めるのは難しいのではないかと。

<p>平成27年第17回 (H27.11.18) 移動教育委員会会議と して芦城中学校で開催</p>	<p>【議案第20号】 平成27年度小松市社会教育賞について</p> <p>【議案第21号】 平成27年度小松市スマイルハート賞について</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスワールドについて(未来の教育課・教育研究センター) ・サイエンスアドベンチャーについて(未来の教育課・教育研究センター) ・「教育相談親の会」について(未来の教育課・教育研究センター) ・クリスマス会 おはなしの家さんのパペットショーについて(図書館) ・こまつ市民読書の日について(図書館) ・(仮称)「青少年育成大会」について(青少年育成課) ・小松市公民館活動にかかる被表彰者について(はつらつ学習課) ・こま短まちなかサテライト講座について(はつらつ学習課) ・市民博士による「若者へ伝えたい 地域の伝統食体験講座」について(はつらつ学習課) ・通学路交通安全プログラムについて(教育庶務課) ・学力調査結果の公表状況について(学校教育課) <p>【教育委員よりの意見・提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の研究発表等は、多くの児童生徒にビデオ等で見せるようなしかけをしてはどうか。 ・学校と市立図書館が連携した子ども達の支援体制を。 ・各学校の校長先生と教員或いは学校と教育委員会の関係かかわりあい希薄にならないような距離を保てるよう十分注意していく必要があるのではないか。
<p>平成27年第18回 (H27.12.15)</p>	<p>【議案第20号】 平成27年度小松市社会教育賞について</p> <p>【議案第21号】 平成27年度小松市スマイルハート賞について</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サイエンスアドベンチャーについて(未来の教育課・教育研究センター) ・中学生サミットについて(未来の教育課・教育研究センター) ・上映会について(図書館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・全国学校給食週間について(学校教育課) ・平成28年度小松市奨学金について(学校教育課) ・平成27年度勝木賞について(学校教育課) ・平成27年度英語検定受験状況について(市立高校) ・第23回「卒展」について(市立高校) ・青少年健全育成大会について(青少年育成課) ・第68回小松市成人式について(青少年育成課) ・議会報告(教育次長) <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事案等について、客観的に正確に伝えてほしい。 ・冬期間の通学の安全について学校と連携した取り組みの検討を。 ・教育委員会内の事業について、タイムリーに経過、経緯等の報告を。

<p>平成28年第1回 (H28.1.14)</p>	<p>【議案第1号】 小松市立登窯展示館条例施行規則の一部を改正する規則について</p> <p>【議案第2号】 小松市公民館規則の一部を改正する規則について</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・加賀九谷焼展の実績報告(美術館・博物館) ・博物館、本陣美術館の展覧会について(美術館・博物館) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・視聴覚室のリニューアルについて(図書館) ・古文書講座について(教育庶務課) ・市民講座「加賀国府を考える」part4について(埋蔵文化財センター) ・平成27年度勝木賞授与式について(学校教育課) ・平成27年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について(学校教育課) ・平成28年度市立高校入学検査要綱について(市立高校) ・全国子供歌舞伎フェスティバルin小松子供歌舞伎「勸進帳」経過報告(青少年育成課) <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サマー・アドベンチャースクールは今後も継続を。 ・児童相談所や警察、幼保小中高校、保護者、地域等が連携し、児童虐待の未然防止を。 ・継続的な取り組みによる課題や問題点は進捗状況を確認し、定期的に前年度と比較し見直ししていくことによりスムーズに進められるのではないかと。
<p>平成28年第2回 (H28.2.18)</p>	<p>【議案第3号】 平成27年度勝木賞被表彰者について</p> <p>【議案第4号】 平成28年度小松市奨学金支給奨学生について</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宇宙の学校について(未来の教育課・教育研究センター) ・子育て講座について(未来の教育課・教育研究センター) ・こまつ市民読書の日 キッズ講座について(図書館) ・映写会について(図書館) ・駐輪場・駐車場改修工事について(図書館) ・南部図書館開館10周年記念講演会について(図書館) ・古代体験春まつりについて(埋蔵文化財センター) ・森山啓ジュニア文芸賞について(学校教育課) ・広域通学モデル事業 平成28年度募集結果について(学校教育課) ・平成28年度市立高校推薦入試出願状況について(市立高校) ・のしろ児童館の転用及び苗代小学校区の放課後児童クラブについて(青少年育成課) ・平成27年度3月補正及び平成28年度事業概要について(教育次長) <p>【教育委員からの意見・提言】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保の難しい時期にきており学校給食の民間委託はよいと思う。市全体、学校を考えた人事配置を。 ・校長がしっかりフォローし、若手教員の育成を。
<p>平成28年第3回(臨時会) (H28.2.18)</p>	<p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年4月1日付け組織機構見直しについて(教育長)

<p>平成28年第4回 (H28.3.1)</p>	<p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寄附受納について(教育研究センター) ・寄附受納について(図書館) ・小松市学校給食調理等業務委託の状況について(学校教育課)
<p>平成28年第5回(臨時会) (H28.3.30)</p>	<p>【議案第5号】 小松市文化財調査委員の委嘱について(教育庶務課)</p> <p>【議案第6号】 小松市教育委員会の公印規則等に関する規則の一部改正について(教育庶務課)</p> <p>【議案第7号】 小松市教育委員会職員の勤務時間等に関する規程の一部改正について(教育庶務課)</p> <p>【議案第8号】 小松市放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準を定める条例施行規則の一部改正について(青少年育成課)</p>

(2)教育委員が出席した主な活動内容

年月日	内 容
平成27年 4月 1日	総合教育会議(小松市役所)
平成27年 4月 1日	教育委員会会議(小松市役所)
平成27年 4月 2日	新規採用教職員服務宣誓式(小松市役所)
平成27年 4月 7日	校長協議会(小松市役所)
平成27年 4月 8日	小松市立高校入学式(小松市立高校)
平成27年 4月16日	教育委員会会議(小松市役所)
平成27年 4月27日	小松市立学校教頭協議会(小松市役所)
平成27年 5月 7日	小松市学校教育研究協議会総会(芦城小学校)
平成27年 5月12日	石川県市町教育委員会連合会定期総会(金沢市)
平成27年 5月14日	総合教育会議(小松市役所)
平成27年 5月14日	教育委員会会議(小松市役所)
平成27年 5月22日	小松市特別支援教育振興会総会(第一地区コミュニティセンター)
平成27年 6月 2日	学校計画訪問(木場小学校)
平成27年 6月 8日	学校計画訪問(安宅中学校)
平成27年 6月 9日	学校計画訪問(御幸中学校)
平成27年 6月 9日	教育委員会会議(小松市役所)
平成27年 6月11日	学校計画訪問(東陵小学校)
平成27年 6月16日	学校計画訪問(芦城中学校)
平成27年 6月17日	学校計画訪問(安宅小学校)
平成27年 6月24日	学校計画訪問(板津中学校)
平成27年 6月26日	学校計画訪問(苗代小学校)
平成27年 6月29日	教育委員会会議(臨時会)(小松市役所)
平成27年 6月29日	総合教育会議(小松市役所)
平成27年 6月30日	学校計画訪問(芦城小学校)
平成27年 7月 1日	学校計画訪問(那谷小学校)
平成27年 7月 2日	学校計画訪問(向本折小学校)
平成27年 7月 6日	学校計画訪問(南部中学校)
平成27年 7月13日	学校計画訪問(国府中学校)
平成27年 7月24日	小学校水泳記録会(末広屋外プール)
平成27年 7月31日	小学校相撲教室(末広相撲場)

年月日	内 容
平成27年 8月 2日	小松市 PTA 研究大会(こまつドーム)
平成27年 8月 4日	石川縣市町教育委員会セミナー(金沢市)
平成27年 8月11日	教科書採択委員会(小松市役所)
平成27年 8月20日	教育委員会会議(小松市役所)
平成27年 8月27日	教育委員会会議(臨時会)(小松市役所)
平成27年 8月28日	小松市立学校校長協議会(小松市役所)
平成27年 9月11日	教育委員会会議(小松市役所)
平成27年 9月14日	学校計画訪問(串小学校)
平成27年 9月15日	学校計画訪問(荒屋小学校)
平成27年 9月17日	学校計画訪問(松東中学校)
平成27年 9月25日	学校計画訪問(蓮代寺小学校)
平成27年 9月29日	学校計画訪問(市立高等学校)
平成27年 9月30日	学校計画訪問(今江小学校)
平成27年10月 1日	学校計画訪問(矢田野小学校)
平成27年10月 5日	学校計画訪問(西尾小学校)
平成27年10月15日	教育委員会会議(小松市役所)
平成27年10月16日	学校計画訪問(日末小学校)
平成27年10月16日	石川縣市町教育委員会連合会研究大会(川北町)
平成27年10月21日	学校計画訪問(犬丸小学校)
平成27年10月26日	学校計画訪問(稚松小学校)
平成27年10月30日	学校計画訪問(中海小学校)
平成27年11月 3日	小松市文化賞贈呈式(こまつ芸術劇場うらら)
平成27年11月 6日	中学校古典教室(こまつ芸術劇場うらら)
平成27年11月11日	学校計画訪問(栗津小学校)
平成27年11月12日	加南地区教育委員会連絡協議会研究大会(能美市)
平成27年11月13日	学校計画訪問(第一小学校)
平成27年11月18日	移動教育委員会会議(芦城中学校)
平成27年11月19日	研究発表会(月津小学校)
平成27年11月24日	研究発表会(芦城小学校)
平成27年11月25日	学校計画訪問(金野小学校)
平成27年11月26日	学校計画訪問(波佐谷小学校)
平成27年11月27日	研究発表会(中海中学校)

年月日	内 容
平成27年11月30日	学校計画訪問(能美小学校)
平成27年12月 1日	小松市功労3賞贈呈式(こまつ芸術劇場うらら)
平成27年12月 1日	小松市スポーツ賞授与式(こまつドーム)
平成27年12月 6日	加賀地区小学生卓球大会(桜木体育館)
平成27年12月15日	教育委員会会議(小松市役所)
平成27年12月15日	総合教育会議(小松市役所)
平成28年 1月 5日	小松市立学校校長協議会(小松市役所)
平成28年 1月10日	小松市成人式(末広体育館)
平成28年 1月14日	教育委員会会議(小松市役所)
平成28年 1月26日	学校給食週間試食会(芦城小学校)
平成28年 2月 6日	立志式(丸内中学校、JA小松板津支店、中海町公民館)
平成28年 2月 7日	立志式(安宅会館、御幸中学校、南部公民館)
平成28年 2月11日	青少年健全育成大会(こまつ芸術劇場うらら)
平成28年 2月14日	立志式(那谷町会館)
平成28年 2月17日	小松市学校・教職員研究表彰式(小松市民センター)
平成28年 2月18日	教育委員会会議(定例・臨時)(小松市役所)
平成28年 2月25日	勝木賞授与式(サイエンスヒルズこまつ)
平成28年 3月 1日	教育委員会会議(小松市役所)
平成28年 3月 2日	小松市立高校卒業式(小松市立高校)
平成28年 3月11日	小松市立中学校卒業式(各校)
平成28年 3月17日	小松市立小学校卒業式(各校)
平成28年 3月18日	小松市立小学校卒業式(各校)
平成28年 3月30日	教育委員会会議(臨時会)(小松市役所)